

(参考4／3第1回委員会「資料6」)

これまでの安全対策における課題等（例示）

これまでの安全対策における課題等（例示）

自動車運送事業者に対する現行の安全対策における課題等について、以下１～７の大項目に分類し、検討を進めることとする。

なお、既にいくつかの大項目において、具体的な課題等を例示している。

1. 現行の安全対策を補う仕組みの導入

○安全対策の水準は経営トップの安全意識に大きく左右され、また、安全対策を運行管理者任せとし、企業全体での安全確保体制が弱体化し、運行管理者から運転者への上意下達的指導監督が行われている等の事例が見受けられる。このため、経営トップが主導して安全確保に当たる取り組みを行い、PDCAサイクルを活用した計画的・継続的な対策と参加意識、納得が得られるような研修の実施等、現行の安全対策ではカバーできない部分を補うような仕組みの導入が必要ではないか。

2. 運行管理制度における課題等

- 運行管理者は輸送の安全を確保するために、多くの業務を行っているが、その責務を十分に果たしているか。
- 運行管理者の講習について、全て座学となっているが、より実技的な側面を重視すべきではないか。
- 運行管理代務者の業務の範囲及び資格要件を明確にするべきではないか

3. 運転者対策における課題等

- 安全確保は最終的には実際に運行を行う運転者の一瞬の判断や資質に依存するところ
が大きいため、過労運転の防止等、運転者の適切な労働環境の確保を図るとともに、
運転者の全体的な質の向上と問題の多い運転者の排除を図る方策が必要ではないか。
- 深夜時間帯等の点呼をはじめ対面点呼の実施率が低いとの情報があるが、実施率を
上げるにはどのような方法があるか。

4. 車両における課題等

- 整備計画等を十分に履行しない事業者等が見受けられるとの指摘があるが、整備管
理に対する事業者の認識を改善する施策が必要でないか。
- 外部の整備工場等に整備管理を委託する場合にも、自らの企業内に整備責任者を設
けることとなっているが、当該整備管理者は点検・整備の確保に十分な責務を果た
しているか。
- 定期点検整備記録簿は、車載義務があるため、監査の際に確認に支障があるとの指
摘があるが、代替策等はないか。

5. 施設における課題等

- 運転者の安全運転能力を更に向上させる講習、研修等を実施できる共用研修施設は十
分整備されているか。

6. 参入時及び事後チェックにおける課題等

- 監査実施後に車両の大部分を別の営業所に移してしまうなどのいわゆる「処分逃れ」
行為を防止するための有効な方策はないか
- 監査実施後、事業者が改善報告を行うまでの間、違反行為が継続している可能性が
あるとの指摘があることから、違反を確認した際に早急に改善させる方策はないか

7. その他

- 規制緩和による過剰な事業者間競争の状況において、社会保険等の未加入事業者は公正な競争条件の確保がなされておらず、安全を阻害しているとの指摘があるが、この問題を改善させる方策はないか